

第 26 回

令和 2 年 2 月 17 日

No.1542

会長 橋本 亜紀子

幹事 高橋 道成

例会日 / 毎週月曜日 12:30~

例会場 / トキハ会館 4F

TEL 097-532-0611

FAX 097-532-8386

会長スローガン

「楽しもう!ホーム例会」

出席率80%以上を目指して

Email : oita1985rc@mist.ocn.ne.jp

ホームページ : www.oita1985rc.jp



2019-2020年度国際ロータリーのテーマ

「ロータリーは
世界をつなぐ」RI 会長 マーク・ダニエル・マローニー
RI第2720地区ガバナー 瀧 満
大分第4グループガバナー補佐 岩崎 哲朗

■ 本日のプログラム (2月17日)

19:00	点 鐘	
	ロータリーソング	「我等の生業」
	ゲスト・ビジターの紹介	会長 橋本 亜紀子
	会長の時間	会長 橋本 亜紀子
	出席報告	出席担当 西岡 一雄
	幹事報告	幹事 高橋 道成
	委員会報告	「関係委員会」
	ニコニコタイム	姫野 勇人

19:30 「防災講話」
福祉フォーラムin別杵速見実行委員会
事務局 姫野 松男様

* 今週のお祝い

会員誕生日 姫野 勇人会員 (2月23日)

■ 第25回例会の記録 (2月10日)

「ザビエルが語り宗麟が聞いた福音」
ムジカ ミニストーリーズ アガペチャペル
牧師 廣田 勝正様

・出席報告 (2月10日)

会員総数	21 名
2 月 10 日	
出席免除	0 名
出席会員数	16 名
出席率	76.19 %
ゲスト	2 名
ビジター	1 名
1 月 27 日	
修正出席率	85.00 %

ロータリーソング

【我等の生業】

我等の生業なりわいさまざまなれど 力むるところは向上奉仕
集いて図る心は一つ おお ロータリアン
求むるところは平和親睦やわらび むつみ 我等の集い

会長の時間 (2月17日) 会長 橋本 亜紀子

ロータリーの友より

2月号を読まれた方がいらしたら復習になります。

今月は「ようこそ、島へ!」特集があり、日本の離島のロータリーからの面白い記事が載っています。日本は本州・北海道・四国・九州・沖縄本島を除く離島が6847もあり、そのうち有人島は418もあるそうです。今回そのうち6島のクラブから活動内容や島の魅力を語っていただいています。

鹿児島県の奄美中央RC、北海道の利尻RC、沖縄の石垣RC、島根県の壱岐西郷RC、長崎県の対馬RC、香川県の小豆島RCです。国内の離島でもこんなにロータリー活動が盛んなのを目の当りにし、旅してみたい島もあったので例会情報をチェックして訪問してみるのも面白そうだなと思いました。ロータリーは友を作っていける組織ですので、大好きな島があればぜひ訪れた際にはその島のロータリーへ参加してみてください。

また今月の平和と紛争予防月間にちなんで、広島・長崎から平和を伝えるという記事が載っています。昨年11月にローマ教皇が38年ぶりに来日し、長崎を訪れ「平和のための集い」でランプに平和の火をともし、その火を渡したのがインターアクターの内山くんでした。彼は6月にローマ教皇に会うためにバチカンを訪れ、教皇に被爆地訪問をお願いした高校生の一人だそうです。きっかけは彼の入った鎮西学院高校が被爆校であることを知り、核兵器による被害を繰り返してはいけないと思って行動に移したそうです。昨年5月にはスイス・ジュネーブにある国連欧州本部に核兵器廃絶の署名を届け「ヒロシマ・ナガサキ・ピースメッセンジャー」として認知され、高い評価を受けたそうです。彼は高校1年生の時から、核兵器廃絶と平和な世界の実現を目指す「高校生1万人署名活動」に参加していて、スローガン「ビリョクだがムリョクじゃない」を胸に活動されています。

終戦から74年の歳月が流れ、被爆者の高齢化やそれに伴う被爆体験の継承が長崎の課題となっているようで、内山くんのように平和を訴え、悲惨な歴史を繰り返さないことを決意してくれる若者を今後も育てていかなければなりません。

今も世界中で核兵器保有問題が問いただされていますが、日本は唯一の被爆国としてもっと訴えていく必要があると改めて思いました。

皆さんは、それぞれの分野におけるプロフェッショナルですから、私が出る幕はないように思います。私は気がついたら田舎の小さな寺の息子でした。父親の毎朝のお勤めのお経と木魚の音で目が覚めたものです。そんな私が高校1年生の時、友人に「外人がおるから英語を習いに行こう」と誘われて行ったのが教会でした。そして聖書の世界に目が開かれて行きました。大友宗麟は好奇心旺盛、自由な精神と柔軟な思考の青年だった。山口からザビエルを呼んだのも、やがてキリシタン大名になったのもそんな彼だったからかもしれません。若き宗麟に感銘を与えたザビエルの話は聖書からの福音でした。その中心は、聖書ヨハネによる福音書3章16節です。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」。「ひとり子」とはキリスト。世とは私どものこと。神は世にいるすべての者を愛しているというメッセージです。今、世界中の人が求めているのは「愛」ではないでしょうか。東京の先輩の牧師が喫茶店でコーヒーを飲んでみると、一人の紳士が「同席させていただいてもよろしいですか?」と言うので、「どうぞ」と座ってもらった。コーヒーを飲みながら「人生ってしんどいですね。生きるって大変ですね」と言う。「どうかされましたか?」「いやあ、恥ずかしい話ですが、今朝方、妻と子供たちを家に置いて別れて来ました。二人の愛が冷めてしまって、頑張ってみたんですが結局だめでした」。牧師だと知ったからか、上場株の会社社長だというその人は、涙を流して悲しみを訴えた。夫婦、親子、同僚との間にも争いが絶えない。ゆるすことができれば解決できるのにそれができない。「ごめんね」と言えば済むのにそれが言えない。愛することがこんなにも難しいのかと思う。しかし、「神は愛である。そのひとり子イエスがあなたのために命を捨てるほどにあなたを愛しているのです」というメッセージは宗麟の心を捉えました。宗麟はキリスト教の布教を許可し、やがて豊後は布教の一大拠点となって行きます。ルイス・アルメイダは、育児院や病院を建てキリストの愛を見える形で実践しました。愛と言っても聖書には、人間の愛は、「だから」という条件付きの愛だと教えています。そこにはどうしても愛の限界があります。しかし、キリストが十字架で表された神の愛は、「にもかかわらず」の愛で、どこまでも愛そうとする無条件の愛です。そこにこそ本当に愛されるという世界が生まれるというわけです。



ムジカ ミニストリーズ アガペチャペル
牧師 廣田 勝正様

ザビエルが伝えたもう一つのことは、彼自身殉教を覚悟してその生涯をキリストに捧げることになった「永遠のいのち」ということです。これは、簡単に言えば死後の世界、天国への約束です。天国へのパスポートは、キリストを信じて頂く「永遠のいのち」だと聖書は記している。中津時代のこと、小学校の校長先生だった方が病気で死を感じた時、子供の頃、友だちから借りた僅かなお金を返していないこと思い出し天国への確信がなくなり私を呼びました。幸いにも、素直な心で罪を悔い改め、永遠のいのちの確信を持って天国へ旅立ちました。三浦綾子さんは、晩年、「私には死ぬという仕事が残されている」と仰ってました。1551年7月のザビエルとの出会いから27年後、宗麟は洗礼を受けて、死ぬという仕事、天国への準備をしたのでした。「手を合わせて主に祈り、遂に聖徒の如く死したが、彼はデウスの御恵により永久の生命を享楽しているであるふと思う」とフロイソは宗麟について書いている。

臨時理事会

2月10日(月) 13:35~13:40 (橋本、高野、坂本、高山、河野)

①再入会について 承認

大木 孝吉氏 室内装飾業 (株)清美装飾 代表取締役

ニコボックス

★高山泰四郎会員 (2口)

(一)先日、八代北RC、熊本江南RC創立50周年式典に出席して参りました。どちらも半世紀の歴史を感じさせる立派な式典でした。(1口)

(二)2月から菊池会員、利光会員が新しく入会されました。

これを契機に一段と増強に励みましょう。(1口)

★木村 成淑会員 (1口)

卓話に廣田先生においでいただいたことに感謝して1口。

★柴山 雄一郎会員 (2口)

元気になっています。

40歳になりましたとの事で御願い致します。

★清水 将文会員 (1口)

米山記念奨学会より米山カウンセラーとして感謝状をいただきました。引き続き尽力いたします。

例会の予定

- 2月24日 (月・祝) 地区補助金プロジェクトII
11:00~13:00 愛育学園 はばたき施設内
- 3月2日 (月) 次年度地区補助金全員協議会
- 3月9日 (月) ゲスト卓話 岩川 義枝様 (大分南RC)
- 3月16日 (月) 創立記念例会 19:00~ 於 にしおか

ゲスト・ビジターの紹介

ゲスト：廣田 勝正様
(ムジカ ミニストリーズ アガペチャペル牧師)
グエン ティ フーン ジャンさん (米山奨学生)
ビジター：甲斐 元啓様 (大分中央RC)